

装着する シートカバーはこれ!

というわけで考えたのがシートカバーを装着するという方法でした。④今回選んだのはこれ。ダティエンタープライズがDottyのブランドで製造/販売しているハイエンドのシートカバーです。ラインナップには通常のPVCを使用したものから、SS-PVC使用の上級モデル、さらにはセンター部分に本革を使用したモデルまで13種類から選ぶ、色も豊富に用意されています。964用としてオーダーしたのはEUROLUXと呼ばれるモデルで色はアイボリー。上級のSS-PVCを使用しているため、柔軟性(360度、どの方向にも伸びる!)、耐久性が高く、シボも消えにくいとのこと。ちなみに名称のSSというのはスーパーソフトの略だそうです。



02



01



04



03 こんな汚れてます!

①せっかく機関の方がだんだん良くなってきてても、ご覧のようなボロボロのシートでは到底程度の良いクルマには見えません。しかもオープンなんで外からも丸見え。これはちょっと恥ずかしいなあ。②③ヒビ割れはもちろん、破けているところもあります。すでにリペアできる限界を超えていますし、張り替えるにしても一部分じゃなくて全部張り替えなくちゃだめでしょう。黒だったら簡単に中古シートが手に入るし、レカトとかいじっちゃう手もありますが、さすがに色が白じゃそう簡単にことは運びません。どこかに、あまりお金をかけずに修理する方法はないものかな?

機関および足回り関係のリフレッシュを終え、先月からインテリアに焦点を当て作業を開始。そこで今日は、購入した時から「なんじゃこりゃ!」「こんな程度悪いの見たことねー」「超最悪!」と散々な言われ方をしてきたシートを再生する。汚れ、破れの酷いこのシート、どんな具合に蘇るのか。作業終了時には、スタッフ全員ビックラ仰天の巻。

文●半谷範一 撮影●森口信之
取材協力●スピードジャパン(tel:0586-67-3357 <http://www.speedjapan.co.jp/>)
ダティエンタープライズ(tel:088-624-6080 <http://www.dotty.co.jp/>)

もちろんそれが安く買えた理由のひとつだというのは紛れもない事実なんです。納得の上のことでしたよ。でもせっかくなので通リ終わったはずなのに、シートがいつまでもこのままである限り、どこに乗っていても実際以上にボロいクルマだと思われてしまうことでしょうか。さすがにそろそろ何とかしないとマズいよね。

だから当然、新品のシートを買うとかいうのは最初から論外。すでにリペアや部分的な張り替えができる限界は突破しているので、そちらの方も非現実的。中古を捜すにしても、色が白じやヤブオクで簡単に見つけてくるというワケにも行きません。

さて困った。どうしよう? しかあし、これらの問題をすべて一気に解決できる画期的な方法がありました! それが今月紹介するシートカバーを装着するという方法です。

シートカバーと聞いて、昔ながらのすっぽり被せるようなブカブカのカバーを連想する方がいるかもしれませんが、しかし、現在のシートカバーは、素材も縫製も格段に進歩していることもあり、車種ごとに専用設計で製作されているハイエンドの製品に関しては、一見ただけでは到底カバーには見えないものもあるのですよ。こりゃ試してみよう。

様々な製品の中から、スピードジャパンの小澤社長が選んだのは、Dottyの製品。964用はもちろん、エプロードの読者の皆さんが興味を持つような輸入車用のラインナップも豊富に揃えられている点も魅力です。

今回は我々だけでは少し不安もあったので、Dottyテラスと呼ばれるショールームのある、スーパーオートバックス三鷹店にお邪魔し、営業部長の池田洋一さんから指導をいただきながらの取り付けとなりました。果たして我々エプロード取材チームにも、上手に取り付けできるのだろうか?

ポルシェ964カブリオレMT車 Vol.1

新車に戻すぞ How Much!

こんなに手軽でしかも仕上がりが上々 シートカバー装着で新車の輝きに!

この964カブリオレの外見上の最大の弱点は、ズバリ、そのシートの状態でした。ボロボロのヒビヒビでみずぼらしいを通り越し、かなり悲惨な状態です。まあクーペボディだったらそんなに気にならないのかも知れませんが、何でつたつたこのクルマはオープンカーですから、嫌でも目に入ってしまうというわけです。

いくらオープンだからといって、少し雨に濡れたくらいじゃここまで酷い状態なることはないで、濡れたまま長期開放放置してしまったのか、間違った手入れ方法が続けていたのか、リペアしようとしてしくじったのか、いずれにしても何かの大失敗をやらかしてしまっただけでしょうね。

さで困った。どうしよう? しかあし、これらの問題をすべて一気に解決できる画期的な方法がありました! それが今月紹介するシートカバーを装着するという方法です。

シートカバーと聞いて、昔ながらのすっぽり被せるようなブカブカのカバーを連想する方がいるかもしれませんが、しかし、現在のシートカバーは、素材も縫製も格段に進歩していることもあり、車種ごとに専用設計で製作されているハイエンドの製品に関しては、一見ただけでは到底カバーには見えないものもあるのですよ。こりゃ試してみよう。

様々な製品の中から、スピードジャパンの小澤社長が選んだのは、Dottyの製品。964用はもちろん、エプロードの読者の皆さんが興味を持つような輸入車用のラインナップも豊富に揃えられている点も魅力です。

引き続きシートバックを装着する!



ここがキモ!



19 さて、続いてバックレストの作業に入ります。13まずはカバーを途中で裏返して頭に被ります(ウソ)。14カバーを裏返すのは、先端部分まできっちりと被せるため。ピッタリのサイズなので、簡単にスポッと被せるワケには行かないのです。ホリジェの場合はヘッドレストが分離式ではないハイバックなので、その分この作業は大変かも知れませんが、15⑩⑪あたりは引っ張りながら少しずつ被せて行くだけ。被せた後で修正するのは困難なので、スレたら最初からやり直します。18下まできれいに被せ終わったら、座面のときと同じように紐できつく縛って固定します。19シートを倒すレバーの周囲などはどうするのか? と思っていたら、カバーを被せた後に樹脂製のヘラで押し込むとのこと。まず最初に池田さんが自らお手本を見せてくださいました。このシートカバーのキットにも付属品としてヘラが付いていましたが、作業をする機会が少ない池田さんは、色々探し回って自分が扱いやすいようなMyヘラを見つけたそうです。

まずは小物類を取り外し座面から装着!



それではさっそく取り付け作業開始。まず最初は座面の部分からスタートです。今回は我々だけでは不安なので、スーパーオートバックス三鷹店の作業ペイをお借りして、ダティエンタープライズの池田さんにご指導いただきながらの装着となりました。⑤⑥⑦まず最初に、シートの側面やスイッチの周囲の部品を外します。⑧⑨次に座面の部分にカバーを取り付けます。さすがに車種ごとの専用設計だけあって驚くほどピッタリ。池田さんのお話によると、毎月のように計測して新製品をラインナップするようにはしているものの、新しく登場する車種が多すぎ、中々すべてのリクエストには対応できないとのこと。⑩⑪シート調整スイッチの部分はシートヒーターなし仕様のクルマに合わせているので、取り付けるには若干カットしなければなりません。カバーで隠れるのでそんなにシビアに合わせる必要はありませんが、切りすぎには注意! ⑫カバーをバックレストと座面の間を側面に通し、きつく縛ります。車種によってはこの隙間が狭くて大変だそうです。

担当SHOP



Dotty Enterprise (ダティエンタープライズ)

シートカバー(車種別専用設計)
高級レザーシートカバーのプレミアムブランド
<http://www.dotty.co.jp/>

今回お邪魔したのは、Dotty Enterpriseの「Dotty西東京テラス」。ここは「スーパーオートバックス三鷹店」内にあるストアインストア形式のショールーム。我々が964用として事前にオーダーしたのはEURO-LUXと呼ばれるモデル。もちろんボリジェ以外にも色んな車種に対応しているし、しかも種類も豊富。ちなみに今回のEURO-LUXはお値段4万320円と意外に安い! 気になる方は上記ホームページで見てちょうだい。

そして完成!

最後に⑤⑥⑦で取り外した部品を取り付けたらすべて作業終了です。20この写真でもお分かりの通り、元々の状態が信じられない見事な状態に仕上がりました。素晴らしい! 21⑫⑬シートを倒すレバーやパワーシートのスイッチの周囲もこの通り。知らない方が見たらまさかカバーだとは思わないでしょう。我々エプロン取材班も、予想以上の結果に驚きました。池田さんにかかっていたところ、このDottyのシートカバーを購入される方々の中で、自分で装着する方は7割前後だそうです。しかし、輸入車の中にはバックレストと座面の隙間が非常に狭いクルマが多いため、慣れない方には作業が非常に困難な場合もあるとのこと。工賃はかかりますが、取り付け込みでのオーダーがお薦めだそうです。ちなみに、今までに作業を行なったことがある輸入車の中では、E39の5シリーズとVクラスが大変だったそうです。

